

レから指教が國労働者何級何組織ニ於て居るか内務省社会局の調査によると、昭和二年亦に於て日本に於ける工場、鉱山、日傭労働者の總数は四百七十九万七千七百七十七人である。之に對し組織労働者の数は三十九万九千四百九十三人にして、而して其の団体数は五百五である。

かくの如き亦組織に對する組織の低率は何に原因してあるか或は深くその原因を以て之とあつてはならぬ。

其の第一は言ひ直さなく我が國資本主義の發展が支那國の如きものである、而して完全なる自由主義時代を經過せずして帝國主義階次に此れに至る。その為には労働者上に於ては、労働者の上に於て若くは労働運動を阻害した。

第二には日本が世界の後進國として先進諸國の恩恵に接せず、利敵となるの立場に在る。故に労働階級の先遣分子は往へ先進諸國の階級闘争の諸種の恩恵に利敵する。此の恩恵的水準を高める而してよく現実と調和するの度量あればこの上も亦、かく此れが理論的深淵より現実的実力と調和を欠くに至つて遂に無産階級戦線の勢もに全敵を未すに至るのである。

既に之れを分裂的傾向を示せばこの間隙に於て寄生し或る若くは舊的段階の下に或る層は右翼的段階の下に又、バリエーションを以て労働者と居る。其の目的は労働運動を阻害するに在り。亦して居るか否か不明である。

第三は、我が國産業の主要なるものが鐵道工業であること、殊に鐵道工業の従業員として總對多數である婦人労働者が特殊なる雇傭関係の下に置かれて居ること（此れは近く打破せらるるに至ることを確信するものがある）その他金屬産業が多数官公營に属して居ることなど、もとの原因をなすものがある。

この時、當つて總聯合の組織方面は組織部の報告によつて居るが比較的良好なる成績を収めて居る。

三、善道選挙の実施と無産政黨の抬頭に伴ひ昭和年代に進入して無産階級運動は政治行動中心の如き觀望を呈した。而して無産政黨の聯合集政に依つて労働組合も亦聯合集政せる如く網羅し得られ、状態である。

然し下り總聯合の政治闘争への進出は無産政黨支那を意味するものであつて、共産黨系の如く労働組合も無産政黨の下に隷屬化せしむることとなり、共産黨と組合を混同することとなり。

即ち党と組合との差別なくの任務を明確にし（労働組合は労働階級の利益を代表する経済闘争の機関であり無産政黨は全被压迫階級の政治闘争の機関である）依つて其の組織、任務、數等は當然明瞭に區別されるべきものである。總聯合はこの見解の下に無産政黨を批判し、これを支持し、その任務を遂行せしむるの方針を標づつて